

— 寄付プログラム —

次世代の芸術創造を活性化する研究助成

2025 年度助成対象事業報告会

支援を受けない演劇人

—— 京都小劇場演劇における支援・資源との関わり方の多様性について

報告者：

柴田 惇朗 岡田 眞太郎 京都小劇場研究会

ゲスト：

佐々木 敦 批評家

本報告会では、2025 年度の次世代の芸術創造を活性化する研究助成の報告会を開催します。助成対象者の京都小劇場研究会のメンバーによる活動報告と、批評家の佐々木敦氏をゲストに迎えたディスカッションを実施します。

報告会概要

演劇と支援の関わり方は複雑だ。助成金の登場以降、演劇人のキャリアは一種の「助成金すごろく」として理解できるようになった。同時に、このような標準的なキャリアモデルに乗らない／乗れない活動も多く存在する。彼らは助成金とどのように距離を取っているのか。また、助成金ではないどのような「資源」を使って活動が続けているのだろうか。

本発表は京都の小劇場演劇に関するアーカイブとインタビュー調査に基づく。そこで語られた多様な活動の目的や戦略を振り返りながら、とりわけ「支援」から距離を取る演劇人の活動に焦点を当てつつ、演劇人と支援・資源との関係を改めて問い直す。（京都小劇場研究会）

日時：2026 年 8 月 19 日（水）19：00-21：00 参加無料

会場：アートコミュニティスペース KAIKA

〒600-8445 京都府京都市下京区岩戸山町 440 江村ビル 2F

阪急「烏丸駅」23 番出口、京都市営地下鉄「四条駅」6 番出口より、南西へ徒歩 8 分

参加登録：<https://www.saison.or.jp/260819debriefing/register> ※後日、アーカイブ配信有



※本報告会は「助成事業に係る広報活動やネットワーク構築」の一環として実施いたします。

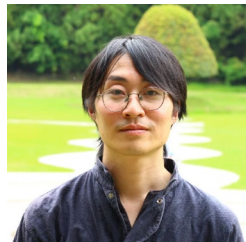
登壇者

京都小劇場研究会

社会学および地理学の学術研究での経験で培った社会科学の知見を生かし、京都小劇場演劇界に関する研究を進め、その境界のつながりを創出することを目的として結成。これまでの主な活動として、インキュベーション キョウト「若者と劇場の距離」リサーチの実施などがある。



柴田 淳朗
代表



岡田 眞太郎
共同研究者



佐々木 敦 批評家

1964年生まれ。批評家。音楽レーベル HEADZ 主宰。多目的スペース SCOOOL 共同オーナー。映画美学校言語表現コース「ことばの学校」主任講師。早稲田大学非常勤講師。立教大学兼任講師。芸術文化の複数の分野で批評活動を行なっている。著書多数。演劇批評の著作に『小さな演劇の大きさについて』がある。

会場

KAIKA



阪急「烏丸駅」23番出口、京都市営地下鉄「四条駅」6番出口より、南西へ徒歩8分。新町高辻交差点の北西角。1Fがファミリーマートの建物。
会場には駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。
<http://www.ftas.info/kaika/access.html>



2027年度公募プログラム「次世代の芸術創造を活性化させる研究助成」

現代演劇や舞踊界の持続可能性に対する問題意識を土台に、文化政策の制度や仕組みに変化を促すことを目的とする調査、研究を対象。その結果に基づいて、国や地方自治体等の公的機関や民間団体へ具体的な政策やプログラムを提言する事業を支援します。

・助成対象者や助成内容、申請手続き等の詳細については、当財団のウェブサイトをご参照ください

<https://www.saison.or.jp/>

○申請書交付申し込み期間：8月1日（土）～9月17日（木）最終日17:00締切

○オンライン説明会：8月20日（木）19:00-19:30

○面談期間：9月1日（火）～9月25日（金）

*本研究助成は匿名の個人の方からの当財団への寄付金を財源とし、2020年度に開始しました。

個人寄付のお願い

セゾン文化財団では、現代演劇・舞踊分野の促進を目的とする支援活動のためのご寄付を、個人の皆様から募っています。皆様のご賛同を仰ぎ、格別のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

・個人寄付に関する詳細やお申し込みについては、以下の Google フォームをご参照ください。

Google フォーム：<https://forms.gle/ACEughCQLBpeVT9a8>

お問い合わせ先

公益財団法人セゾン文化財団 TEL: 03-3535-5566 / Email: foundation@saison.or.jp



Google フォーム